

57年度東日本ブロック新人研修会を開く

雄大な自然と澄んだ空気に恵まれた

那須高原に五十余名が参加

日光国立公園の中でも、一番高原的風景に恵まれ、四季を通じてその自然景観の美しさを知られ、春はツツジ、シャクナゲが咲き乱れ、夏は最適な避暑地として、また秋には那須の峰々を錦一色と化する紅葉と、一年を通じて訪れる人々の絶えない名勝地栃木県那須町の「那須野」において、本年度東日本新人研修会が開催されました。

当初五十名の出席者を見込んでおりましたが、最終的に総数五十四名もの出席をいただき、心強い限りでありました。

東日本ブロックの、遠くは北海道、名古屋方面からの男女出席者を含め定刻の午後一時迄には会場は一ぱいに埋まり、一時過ぎ、地元単組でもある、大田原日赤職組の小貫幸枝氏の進行によって開会が告げられ、研

修会に入りました。

まず、本部川出中央執行委員の挨拶を兼ねて、今研修会の開催主旨が各受講者に伝えられた後、講義に移り、はじめに本部の掛井蔵中央執行委員による「組合規約」、続いて星野馨中央書記長による「労働組合と文字通り多数の新しい組合員が出席された訳ですが、旅の疲れも忘れ、全員が熱心に耳を傾け受講しました。

各単組においても新しい組合員とのテーマで、一般職員にはあまり知られない日赤の内部機構と、日赤新卒の誕生から今日迄の経過等について講義が行なわれました。

文字通り多数の新しい組合員が出席された訳ですが、旅の疲れも忘れ、全員が熱心に耳を傾け受講しました。

各単組においても新しい組合員とのテーマで、新人の方々には組合というものを少しでも理解していただくには幸いですが、解いただけでは不十分です。さて、講義も一通りながら終了した後、気分を一新させて研習で疲れ気味の身体を懇親会場へ運び、全員でカンパいの後、宴に入りました。

適当にアルコールの入ったストランドシアター、ゴーカール、出席者一人ひとりが自己紹介をすることとなり、それ



熱心に学ぶ新人研修会に参加のみなさん

備があり、出席者に真心を返すつもり、しばし楽しんでいただき、現地解散により今回の研修会をすべて終了しました。

「とぎばの娯楽館」

「皮切り」

物事をいちはじめに行うときに使います。

「彼の発言を皮切りに、さまざまな意見がとびかかった」といふように使われます。

「何事も最初は勇気のいる、たいへんなことだ」という意味もあります。

それとも「皮切は苦しいことだ」といふこともありますが、

また、「皮切りの一灸」ということわざもあり、何事も最初はお灸をするとき、最初

(生活の知恵)

「釘を酔につけると抜けない」

木箱や靴箱、棚などを日曜大工でつくるのはいいですが、打ち方の悪いせいもある、釘がすぐ抜けたりします。

せっかくなの苦心の作品がこれで台無し。

そこで釘を抜く方法があります。

酔をつけた先につけるだけでよく、釘は酔の作用で木のなかで錆びますから、しっかりと固定

第一ブロック 合同海水浴とキャンプを

盛岡・八戸日赤職員組合



思いっきり楽しんだ第一ブロックのみなさん

真夏の太陽の照りつける八月七、八日の二泊二日の日程で待ち待ったキャンプを、岩手県種市町川尻海岸にて開催しました。

連日の暑さの中、土曜の午後二時病院を出発、約四十分程にて目的地へ到着。

男性はテント張り、会場作りを行い、女性は夕食の準備にとりかかり、やがてキャンプ場にバーベキューや肉汁の臭いが漂いはじめた頃、盛岡の仲間達が到着しました。

そして、夕やけの中、バーベキュー、肉汁などの野外料理をとり囲み総勢五十人の賑やかな夕食が始まりました。

夜も更けて、大きな月下でキャンプファイアーを囲み、花火大会を行い、大人も童心に戻り子供達と一緒に、遊んだり歌ったり夜ふけるのも忘れるほどでした。

翌日は少し涼しい朝でしたが、昼頃には真夏の太陽も照りつけ、水泳、釣り、スイカ割り

ビヤパーティー盛大に

鳥取赤十字病院職員組合

去る七月二十日、二十三日の二泊三日の日程で、鳥取市内某ビヤガーデンにおいて、百八十余名の組合員の参加をもって、当単組のビヤパーティーを開催いたしました。

夏とはなほ雨、曇りの日が続く、雨日も雨の確率五〇％という不安定な中で、初回は岡山より歌手のタマゴ二名を迎えて、生の歌を聞きながら、また二回目はビンゴゲーム等の余興を入れて盛大に開催致しました。

厚生部長の司会進行により執行委員長挨拶、書記長の音頭でこんな舞台で唄う人、多少は目をつむって聞けば酔も手伝



おなかの中の「砂漠」が、ぐいぐい「生」を飲む

